

令和7年度 学校評価結果報告書

桶川市立加納小学校
校長 西納 聡

1 めざす学校像
「和」を大切にする加納小学校

2 評価結果

領域	No.	評価項目	自己評価		学校関係者評価または学校運営協議会における評価
			評価	説明及び学校の考え	
組織・運営	2	学校は、職員の共通理解、共通行動をもとに、 <u>学級経営</u> を進め、その後の振り返りを行い、検証・改善に取り組んでいる。	B 3.2	学級の課題を担当が一人で抱え込まないように、学年会議等の時間を中心に、情報連携と共通行動を心がけ、実践につなげてきた。	・他学年のことで校内で起こっていることは共通理解していきたい。たまに人伝いに聞いて知ることがあるように思う。
	5	学校は、事故やトラブルに対して組織的に迅速に対応できる体制を整えている。	A 3.5	児童理解委員会等を活用し、組織的に課題解決、児童理解に努めた。必要に応じて、管理職、保護者、担任等を交えて話し合いをもち、迅速な対応に努めた。	・各種マニュアルが設定されていてよい。
確かな学力	6	学校は学力の向上を目指し、児童の実態に基づいて、学び合いや少人数等の学習形態を工夫するといった授業改善に努めている。	B 3.3	埼玉県学力・学習状況調査の検証結果に基づき児童の実態を明らかにし、基礎・基本の定着とともに、学び合いを通じた主体的な学習を実現できるよう研究を進めた。	・TT や少人数指導は、子供の理解に合わせていると感じよい取り組みだと思ふ。
	7	学校は学習規範（落ち着いた態度、礼、返事、話をしっかり聞く、手悪さをしない、忘れ物をしない…など）を定めて授業を進めるなど、共通理解のもと指導にあたっている。	B 3.1	「加納小みんなのやくそく」をもとに学習規律等、全教職員で共通理解を深め、共通指導をした。 また、「加納小みんなのやくそく」の内容について、見直しの機会をもった。	・児童は落ち着いていて、集中して学習していると感じた。
生徒指導・教育相談・特別支援教育	9	学校は、豊かな心の育成に努めるとともに、いじめや問題行動を見逃さずに解決に向けて取り組んでいる。（生活アンケート、個別指導等）	A 3.5	日々の指導や、定期的なアンケートの結果等から児童の変容を見逃さないように努め、必要に応じて組織的に個別指導を行った。その他、道徳の授業の充実、教科指導や全校朝会・学年集会等の全教育活動で人権尊重の感覚を育成する機会を設けた。	・問題行動の発見と解決に関しては、速やかに対応されている。 ・全体的に子供たちによく目が行き届いている。
	10	学校は、規範意識に対して、全職員の共通理解・連絡調整・確認が図られ、組織的な指導が行われている。（児童理解委員会等）	B 3.3	毎月全校共通の生活目標を提示し、各学年・各学級ともその目標達成に向けて取り組んでいる。個別の事案についてケース会議を積極的に実施していく。	・授業参観や運動会等をもて、児童はルールを守り、仲良く楽しんでいる姿が見られた。良いと思う。

健康・体力	11	学校は、児童の体力向上に向け、元気タイムの計画、授業の年間指導計画を立て、実施している。	A 3.5	体育館にエアコンが設置されたため計画的に授業を実施することができた。	・たくさん運動して体力をつけてほしい。
	12	学校は、学級での給食指導が適切に行われ、食に関する意識を高めようとしている。	B 3.3	栄養技師、養護教諭を中心として食物アレルギーへの対応をきめ細かく行った。黙食をやめたことで、楽しく会食する姿が見られるようになった。校内放送による食育を毎日実施している。	・給食指導に関して、学校として把握し、再度見直しがあっても良いかと思う。
学習環境	13	学校は、温かさや潤いのある学ぶ環境作り（明るくあいさつを交わす、歌声が響く、清掃が行き届いている、掲示物等が整えられているなど）を組織的に進めている。	B 3.2	音楽朝会を参集型で実施することができた。様々な環境整備についても学校、保護者、地域が連携し子供たちの学ぶ環境を整えることができた。	・児童とすれ違うと元気なあいさつがあり、温かい気持ちになった。
	14	学校は、教材備品を充実整備し、学習環境の充実を図っている。（各教科等）	B 3.0	教材室の整備を行い、より活用しやすく分類・表示を行った。多くの教材備品の代用品として ICT 機器が大きな役割を果たしているものの、接触不良など、耐用年数等の関係から新たに整備の必要な備品が出てきている。	・修理や新規購入を依頼してほしい。 ・予算が少ない中でも、児童の安全上の修繕などは行ってほしい。
教職員の資質の向上	15	学校は、教職員一人一人の自覚を促し、教育公務員として服務規律を遵守し、保護者・地域の信頼を築くよう努めている。	A 3.4	教職員倫理確立委員会をはじめとし、校内研修会等、状況に応じた服務等について学ぶ機会を設け、教職員事故防止について確実な取り組みを行った。	・今までの良き習慣を守りつつ、新しいことにもチャレンジしてほしい。
	16	学校は、教職員の指導力向上に計画的・組織的に取り組んでいる。	B 3.3	授業公開週間を通じて、相互に授業を見合っスキルアップを図る取り組みを活性化させるのが課題である。	・児童のためにこれからも尽力してほしい。
家庭・地域との連携	17	学校は、学校だよりやホームページ等、また参観の機会を設けるなどして、積極的に教育活動を公開し、情報提供している。	A 3.6	ホームページには学校での児童の様子が分かるように写真等を掲載し保護者、地域の方々に毎日教育活動を公開した。 E-メッセージを通じて、防犯だけではなく、PTA とも連携して必要な情報や行事等のお知らせなどを配信した。	・ホームページに子供たちの活動が載っていて、どんなことを行っているかが、よく分かって良い。
	18	学校は、保護者や関係者等と連携し、通学路の危険箇所の確認等地域の安全、児童への安全対策が適切に行われている。	B 3.5	定期的な下校指導・通学班指導に加え、交通指導員、安全ボランティア、PTA 等の方々にご協力いただき、見守りを行った。また、防犯懇談会を開き、児童の安全確保について話し合いをもった。	・引き続き交通安全指導をお願いしたい。